国土交通省
近畿地方整備局
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism. Kinki Regional Development Bureau
Press release

令和４年１月１４日　１４時００分
資料配布　近畿地方整備局
紀南河川国道事務所

国道42号　田辺西（たなべにし）バイパスが3月20日に全線開通します

【今回開通区間：田辺市芳養町清地路（たなべはやちょうせいじろ）～同町大屋（おおや）】

～交通混雑の緩和、地域住民の利便性向上等に寄与～

国道42号田辺西（たなべにし）バイパス（延長3．8km）のうち田辺市芳養町清地路（たなべはやちょうせいじろ）～同町大屋（おおや）間の延長1．6kmが、令和4年3月20日（日）15時に2車線で開通します。
この区間の開通により、田辺西バイパスは全線開通することになります。

○開通区間　：　国道42号田辺西（たなべにし）バイパス　延長1．6km
田辺市芳養町清地路（たなべはやちょうせいじろ）～同町大屋（おおや）

○今回の開通による主な整備効果
①交通混雑の緩和
②地域住民の利便性向上
③交通安全の確保
④災害時の交通確保

○開通を記念した催しについては、後日お知らせいたします。

＜取扱い＞　――――――――

＜配布場所＞
近畿建設記者クラブ
和歌山県政記者クラブ
和歌山県政放送記者クラブ
和歌山県地方新聞記者クラブ
大手前記者クラブ
田辺記者クラブ

＜問合せ先＞　国土交通省　近畿地方整備局　紀南河川国道事務所
副　所　長　本田（ほんだ）　明（あきら）
工務第二課長　末永（すえなが）　卓（たかし）
TEL　0739-22-4564（代表）

事業の概要

田辺西バイパスは、近畿自動車道紀勢線南紀田辺ICへのアクセス道路としての役割を担うとともに、紀伊半島沿岸部をつなぐ唯一の主要幹線道路である国道42号の交通混雑の緩和、地域住民の利便性向上、交通安全の確保、災害時の交通確保を目的とする道路です。

○開通概要

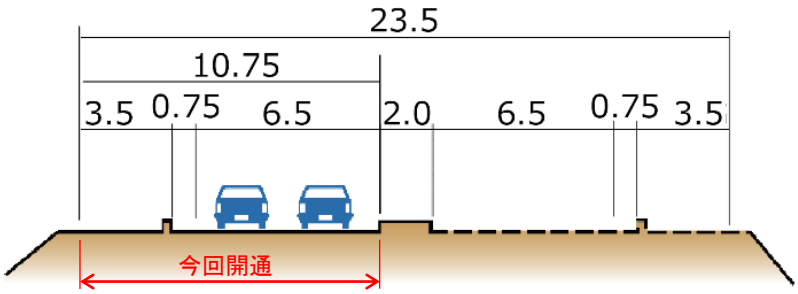
区　　間	（起）和歌山県田辺市芳養町清地路 （終）和歌山県田辺市芳養町大屋
道路延長	1.6ｋｍ
構造規格	第3種第2級
設計速度	60km/h
車線数	暫定２車線
標準幅員	23.5m

○主な事業の経緯

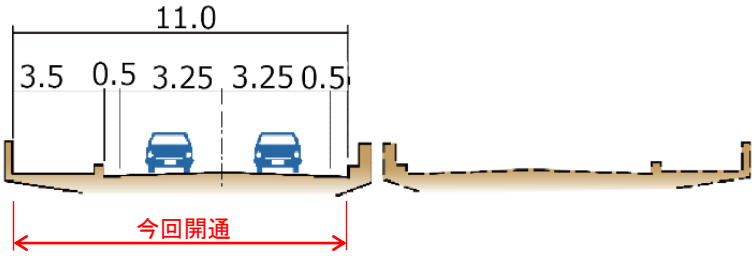
年　　度	事業実施項目
平成９年度	事業化
平成13年度	用地着手
平成13年度	工事着手
平成19年度	IC区間（0.6km）完成４車線供用 （田辺市稲成町稲成）
平成25年度	一部区間（1.6km）暫定２車線供用 （田辺市稲成町稲成～芳養町清地路）

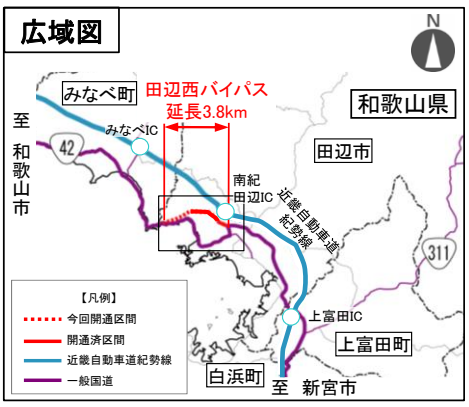
○標準断面図（今回開通区間）

【一般部（土工部）】



【橋梁部】





現在の現場状況

【位置図】

凡例	
撮影方向	写真●

写真①

至 和歌山市

至 新宮市　　R3.12撮影

写真②

至 和歌山市

至 新宮市　　R3.12撮影

写真③

至 新宮市

至 和歌山市　　R3.12撮影

期待される整備効果

◇交通混雑の緩和

・田辺西バイパスに並行する国道42号（現道）では明洋交差点において交通混雑が発生していたが、平成26年3月、田辺西バイパスの部分開通により交通混雑が緩和。
・交通混雑が残る国道42号芳養松原交差点において、今回の田辺西バイパス全線開通により交通混雑の緩和が期待される。

写真A
国道42号　芳養松原交差点の混雑状況

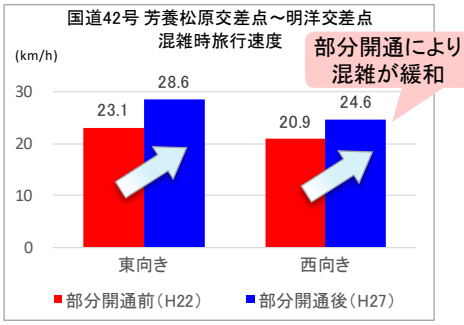
H29.10撮影

写真B
(県)芳養清川線　芳養松原交差点の混雑状況

H29.10撮影

写真C
国道42号　明洋交差点の混雑状況

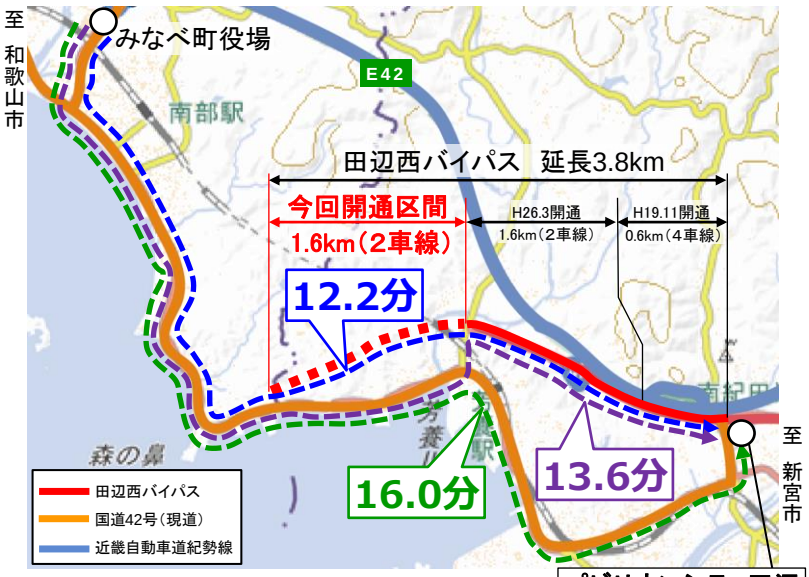
H23.7.22（金）撮影　　H26.6.13（金）撮影



出典：全国道路・街路交通情勢調査、一般交通量調査

◇地域住民の利便性向上

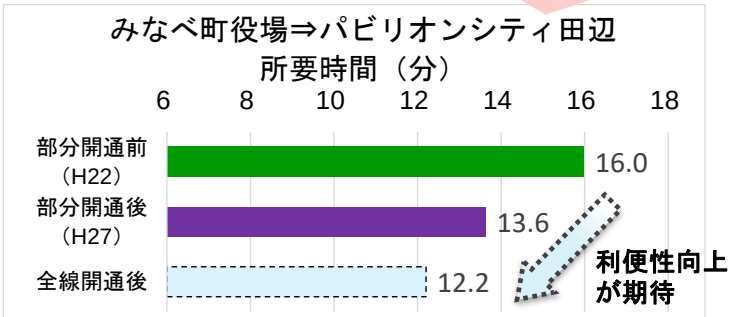
・田辺西バイパスの部分開通により、みなべ町から地域最大の大型ショッピングセンターへのアクセス時間が短縮。今回の全線開通により、みなべ町民の更なる利便性向上が期待される。



部分開通前のルート
部分開通後のルート
全線開通後のルート
みなべ町役場～パビリオンシティ田辺の所要時間

※国土地理院の地理院タイル（ベースマップ・標準地図）を加工して作成

みなべ町から大型ショッピングセンターへの所要時間が短縮



出典：全国道路・街路交通情勢調査、一般交通量調査
全線開通後：開通区間は設計速度(60km/h)、その他区間はH27と同条件で算出

みなべ町から多くの町民が、田辺西バイパスを利用して、田辺市内の商業施設へ買い物に行きます。これまでの田辺西バイパスの開通により、買い物に行く回数が増えましたし、何より安心安全に行くことができるようになってよかったです。全線開通により、さらに便利に、安心安全になることを期待します。

みなべ町総務課

出典：紀南河川国道事務所ヒアリング（R3.2）

期待される整備効果

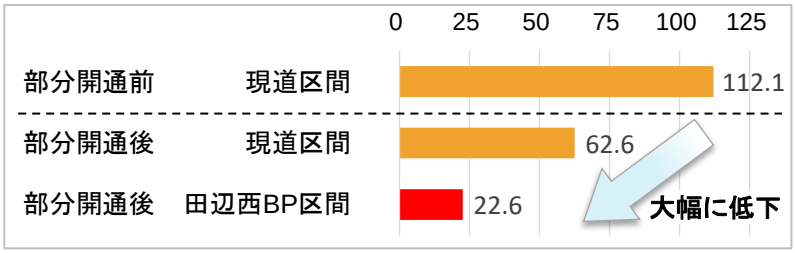
◇交通安全の確保

・国道42号の現道では、田辺西（たなべにし）バイパスの部分開通前の死傷事故率は112件/億台キロであったが、部分開通後には41件/億台キロにまで低下。
・今回の開通により、更なる交通死傷事故率の低下が期待される。

田辺西バイパス部分開通（H26.3）後の死傷事故発生箇所

田辺西バイパスの部分開通前に比べて、
現道もバイパスも死傷事故率が大幅に低下

国道42号（現道）及び田辺西バイパスの死傷事故率（件/億台キロ）



出典：死傷事故件数　交通事故総合分析センター
（開通前：H25.4.1～H26.3.14、開通後：H26.3.15～H30.3.31）
交通量　全国道路・街路交通情勢調査、一般交通量調査
（開通前：平成22年、開通後：平成27年）
部分開通後の死傷事故率は現道区間とバイパス区間の走行台キロによる加重平均値

◇災害時の交通確保

・田辺西（たなべにし）バイパスと並行する国道42号（5.6km）について、東南海・南海地震時に予想される津波浸水被害予測延長は約4km（約7割が被災）。
・東南海・南海地震時の津波により、国道42号が浸水した際には、田辺西（たなべにし）バイパスが迂回路および避難路として機能することで、物流や市民生活の機能確保が期待される。

●田辺西バイパスの現道区間での津波浸水予測図

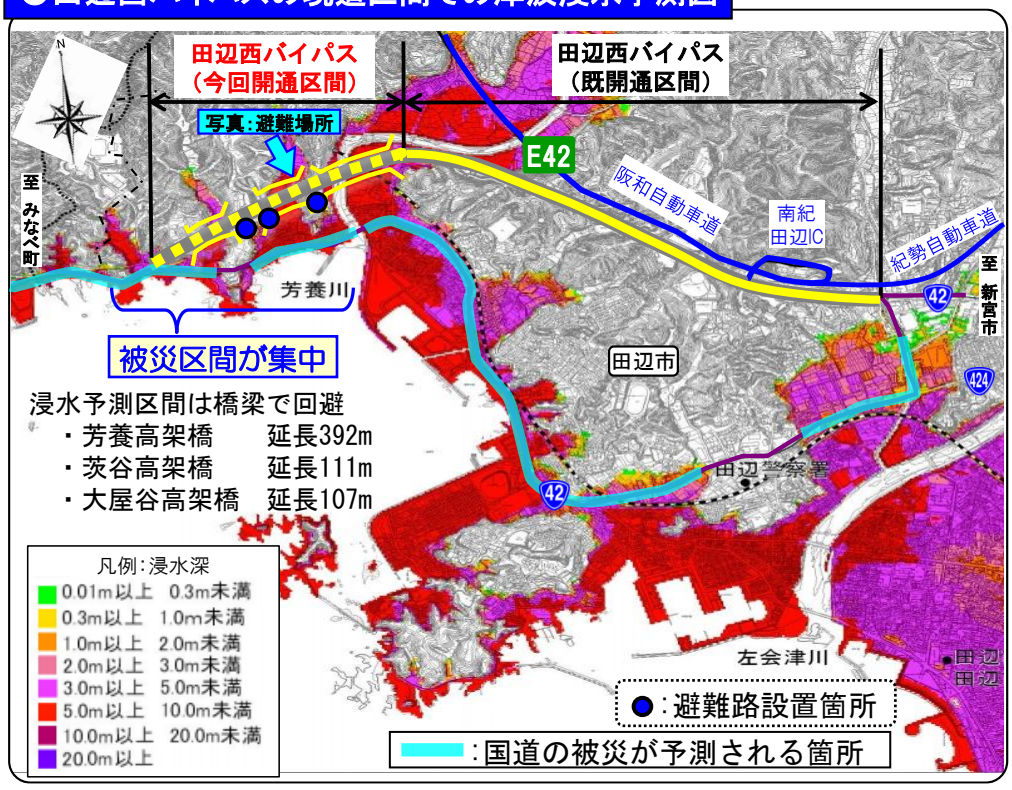
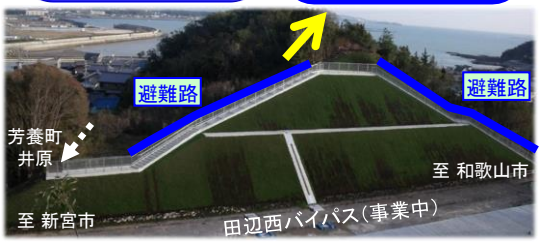
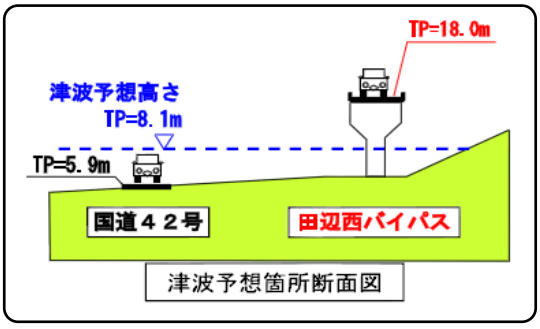


写真 避難路の設置





資料：南海トラフの巨大地震による浸水想定　和歌山県